

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100841		
法人名	企業組合つどい		
事業所名	グループホームつどい		
所在地	沼津市島谷5-1		
自己評価作成日	平成22年8月10日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=227110

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成22年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さなユニットの利点を生かし、細部にわたり、細かな配慮が行き届いている。常に介護技術の向上に努

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

根方街道近くにあり、従来の居住者とは新戸者とは入り混じった住宅地に位置する。事業所は7年目を迎えており、旧からの居住者には情報をもらい新たな居住者には情報を渡すことのできる存在でありたいと考えている。入口に新しく看板も設け、玄関先の庭は小さいながらも英国風のモダンな造形を取り入れている。看取り加算はとってないが、家族の希望がある際は訪問看護の医療範囲で取り組んでいるため、過去7年間に12件の看取りの実績がある。ご縁があつて入所した利用者の見送りの機会を頂けたことに感謝しつつ、職員が心をひとつにして励んでいることが管理者の自慢のひとつとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々とは、常に共に生かし、支え合う関係であるよう努力したい。	昨年理念の中に「地域住民との交流」を加えたことから、例年にも増し事業所外の集まりに積極的に参加している。	(これまでは理念に関する話し合いは幹部職員のみで行ってきたとのことであるので)職員を交えて理念について語り合う機会をつくることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を有効に活用しながら、積極的な交流を心がける。	公民館活動における認知症セミナーのメッセージングを努めたり、地域の建築物着工の際にバリアフリー見学を受け入れるなど、相互交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を始め認知症家族会などへの参加への努力を惜しまない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一部の参加者に限らず、全職員がすべての事を共有できる努力をしている。	自治会長、民生委員など地域からは毎回3～5名ほどの参加がある。夜間に開催しているため参加者に制限があったが、本年は事業所から働きかけをし、市の介護相談員の参加も今後は予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に良好な関係であるよう努力し心がける。	事業所も開設して7年を経て長くあるため、担当部署の大半が顔見知りである。また、数名ではあるが、相互の相談を気軽にできる関係もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令遵守と高齢者の尊厳は、老人介護において大前提である。	心身の安全を第一に(必要な場合は医師の指導の下)、家族と話し合いをもっている。また、心身を守るため緊急やむをえない場合は、「切迫性」「非代替性」「一時性」の要件を満たした上で取り組んでいる。	緊急やむをえない場合「切迫性」「非代替性」「一時性」の要件を満たし取り組んでいることは話から理解できるが、記録が不十分なことから、今後は書面による手続きをとることを期待する
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス担当者会議の席などで、高齢者の尊厳を順守することが虐待防止等へ繋がることを常に話題にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未だに有効活用はないが勉強会でのレジメは、常に目の届く処に置き学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解りやすい安い説明を常に心がけ不安を払拭する努力を心がける。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と話す折、思いや気がついた事があつたら教えて頂きたいと話している。	遠方から来訪する家族や看取りのため付き添う家族のために、近隣の喫茶店の珈琲券を用意している。このような配慮のいくつかを通じ、家族とはオープンに意見を交える関係にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	押し付けではなく、常に話し合えるよう余裕のある雰囲気と時間作りを心がける。	職員の職歴や技術を現場に活かすことで、役割や意義を得られるよう工夫している。例えば、本年はピアノ講師を経た者が2名入職したことから、音楽療法に力を注いでいる。このような側面的支援をすることで、発言しやすい状況ができていく。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力は認め、夢や希望が持てる職場づくりや充実した日々が過ごせるようお互いの話し合いを十分つくす。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人に合った研修に参加する努力と全体のレベルアップを常に心がける。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会などを通じ情報交換をし、又それを生かす努力。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な話し合いの後、疑問や不安がないか必ず伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく傾聴し、まず良好な関係であることが第一歩ですと必ず伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何がそしてこの先何かを十分見極めながら柔軟な対応を心がける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族であるとの思いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を大切にしながら共に支え合う関係作りに努力する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、入居者、職員との距離の取り方を大切に心がける。	コンビニや喫茶店など近隣の飲食店の回数券を購入するなど事業所としておつきあいをする中で、利用者のことも覚えてもらえ、地域におけるなじみの関係ができています。また、来訪できない家族へのお手紙支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活である上での調和も大事なことでとらえています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の近況報告を頂いたり、季節の挨拶など御縁を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過ぎた日々を大切にしながら今、何ができるかを常に考えるよう努めている。	日々意向も変わるため、入所時のフェイスシートや昨日までの事柄に過信しないよう「いま、ここ」における対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族ともよく話こみ情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス担当者会議をじゅくに全員で、常に話し合う努力し方向性決める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を中心に、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング、カンファレンス、プランづくりは一貫して全職員で取り組んでいる。ただし、出席できない場合は、主に担当する利用者の情報を書面提出することになっているため、全職員の意見を反映させることができていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は当然の事として、細かな点は引き継ぎのノートによりその結果がどうであったかしっかり把握できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さなユニットの特性を最大限に活かきめ細かなサービス対応に努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別ケアは、大切にしている事の一つである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携は常に良好であるよう努めている。それが本人、ご家族、職員が安心できるポイントであるから。	定期では、訪看が週1回、医師による往診が月2回ある。(通院の)受診支援は基本的には職員がしている。医療記録は「介護変更マニュアル」に記載され、情報の共有化が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各人のDRの往診記録や訪問看護記録は別があり、職員がすぐに利用できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携が十分に機能している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における医療体制指針に則り協力医療機関などの支援を受け、ご家族と話し合いを行い、施設でできることを十分に説明しながら方針を共有している。	家族には、医療行為がともなう看取りはできないことを契約時に理解してもらっている。ただし、医療加算もとり訪看の範囲であれば受け入れることができることから、開設から7年間に12件の看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去の前例から、しっかりと学び教訓として実践できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の通報及び対応の手順等のマニュアルがあり協力体制ができている。	年2回、避難訓練は行っているが、想定を毎回替えることはできかねている。また、地域の防災訓練にも参加できかねている。	夜間想定訓練に取り組むこと、地域の防災訓練に職員ならびに心身の状態のよい利用者が参加できるよう勤務体制を工夫することを期待する。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人の尊厳は、最重要の一つだととらえている。	「オムツ交換はカーテンをする」といった基本的な事柄はハウスルールとして確立している。また、新人には「やってみせ、やらせてみせ」式でマンツーマン体制で指導している。そのため70歳近い新入職員も取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかける努力や希望を叶える努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や天候などを考慮しつつ1日の過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔や着やすさを第一にその人らしいコーディネートを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けなど小さな心使いは常に忘れない	季節の野菜をふんだんに利用し(庭で栽培もしている)、味や盛り付けのほか、皿などの備品にも十二分な配慮があり、見た目にも楽しめるメニュー開発に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックリストにより一目でわかるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に対応した口腔ケアや口腔ケア用品を使った口腔内の清潔など日々の努力を怠らない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に最善の方法を模索し努力している。	チェックシートなどにより習慣を把握した上で、表情や言動などから判断し自然に誘導できるようにしている。また、水分量にも十分注意しているため、全利用者が入所とともに便秘薬をやめている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で、全て管理している。散歩や食事の工夫で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全を第一と考え、職員のレベルを考えながら配慮している。入浴の仕方は好みを大切にしよう心がけている。	なか介助者、中間介助者、外介助者、全体把握者の4名で取り組み、利用者安全第一の体制で取り組んでいる。また、入浴時に身体の状態を確認することにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に対応した口腔ケアや口腔ケア用品を使った口腔内の清潔など日々の努力を怠らない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で、共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外食、読書、おやつ等それぞれに合うよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に空気が良く、散歩にも最適の環境あるので短時間であつても頻回に出かける支援をしている。	交通量は多くはなく、風光明媚であり、散歩コースを多く有している。散歩を好まない利用者もいるが、道々の楽しみを提案し、戸外の空気に触れることを積極的に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金はありませんが、その都度、お金を渡し買物の楽しさなど見守るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのレベルにある方には、促して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節の花は欠かさず、置物や外の野菜などでも工夫している。	整理整頓が行き届き清潔である。また、一般家庭の居間のスペースのため、会話が弾みやすい。また一方で、縫物をしたり、リズム手遊びをしたり、のんびり過ごしたり、一人ひとりが思い思いのことに取り組みながらも、共に過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	微笑ましい光景がしばしばみられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものは自宅から持ってきたりし、急激な環境変化は避ける。	仏壇やキャストなど自宅から好みのものを持ち込んでいる。また、家族の写真や観葉植物など趣味のものを飾り、生活を楽しんでいる様子も視える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人のできる力を大切に、きめ細かな援助を常に心がける。		